

セッション 天敵利用を考える

2019年と2020年に西日本を中心に秋ウンカが大発生し、大きな被害が発生した。みどりの食料システム戦略では、有機農業の面積を農地の25%とする目標が設定されているが、秋ウンカに対する防除対策は考えられていない。トビイロウンカの土着天敵であるウンカシヘンチュウはトビイロウンカ被害の抑制が期待できる天敵である。また、野菜では、害虫の大発生を抑える方法として、土着天敵利用が研究されてきた。

本セッションでは、地域の土着天敵の害虫防除利用の意義や課題について考えます。土着天敵の保護、増殖や利用および外来生物を天敵として利用することの危険性についての報告を元に検討する。

(1) 趣旨説明 座長：星野 滋（広島県立総合技術研究所農業技術センター）

(2) 話題提供

① 「有機農業におけるアグロエコロジカルな土着循環型天敵活用のストラテジについて：水田の浮塵子糸片虫と天敵群アソシエイトを事例に」

日鷹一雅（愛媛大学大学院農学研究科）

② 「野菜害虫防除のための土着天敵の利用と周辺植生の影響」

永井一哉（元岡山県農林水産総合センター）

③ 「有機農業農家での天敵利用」

井上栄明（元鹿児島県農業開発総合センター）

④ 「導入天敵の利用法と問題点（オンシツツヤコバチを例に）」

星野 滋（広島総研農業技術センター）

(3) 総合討論